

科目名	建築CAD設計Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	笠 真由美		
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	建築CAD科 1年								
授業概要	前期で学んだ基本操作と建築知識を応用し、建築物の作図方法を学ぶ。自らの建築製図知識とCADの経験を 駆使したうえで、建造物の特性を理解した適切な判断によるトレースを行い、これを完成させる。								
授業形式	講義：	△	演習：	○	実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標			
	○	○				模型製作の手順を理解し、正確な模型を作成することができる。			
	○	○				作図に必要な用紙設定・尺度設定・印刷設定を行うことができる。			
		○	○			尺度による表記の違いを理解し、平面詳細図を正確に作図することができる。			
		○	○			図面と図面の関係・つながりを理解し、立面図を正確に作図することができる。			
		○	○			効率の良い作図手順を選択し、作図のスピードと正確さを向上させることができる。			
テキスト・教材 参考図書	この1冊で全部わかる木造住宅秘伝のテクニック（エクスナレッジ） オリジナルプリント								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1,2	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 1階平面図					模型の作成を進めて下さい		
	3,4	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 2階平面図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること		
	5,6	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 断面図					授業内容を復習しましょう		
	7,8	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 立面図					授業内容を復習しましょう		
	9,10	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 矩計図					授業内容を復習しましょう		
	10,11	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 矩計図					授業内容を復習しましょう		
	12,13	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 階段詳細図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること		
	15,16	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 階段詳細図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること		
	17,18	【鉄骨造】集会場など 1階平面図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること		
	19,20	【鉄骨造】集会場など 2階平面図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること		
	21,22	【鉄骨造】集会場など 配置図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること		
	23,24	【鉄骨造】集会場など 断面図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること		
	25,26	【鉄骨造】集会場など 立面図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること		
	27,28	【鉄骨造】集会場など 1階小屋伏図兼2階床伏図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること		
29,30	【鉄骨造】集会場など 小屋伏図					課題の提出			
評価方法	(1) 練習課題の提出状況 (2) 確認テスト(作図の正確さ) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	演習課題①～⑦	○	◎	○			60%		
	確認テスト	○	◎	○			20%		
履修上の注意	授業課題が未提出の者、出席が10回に満たない場合は履修単位を与えない。								

科目名	建築計画Ⅱ							
科目名(英)	Architectural planning and designⅡ							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	森行 美枝	
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当	
対象学科・学年	建築CAD科 1年							
授業概要	主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等を実施。							
授業形式	講義: ○		演習: ○		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				幼稚園(保育所) 関する 歴史 変遷について説明が出来る。		
	○	○				学校建築に関する 歴史 変遷について説明が出来る。		
	○	○				外部空間に関する 歴史 変遷について説明が出来る。		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	3－1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷,幼稚園の計画1						
	2	3－1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷,幼稚園の計画2 / 西洋・日本建築史Ⅰ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	3－1幼稚園(保育所) 各室計画 / 西洋・日本建築史Ⅱ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	確認テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	3－2小学校・中学校 小学校・中学校の変遷 / 西洋・日本建築史Ⅲ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	3－2小学校・中学校 学校の計画,校舎の計画 / 西洋・日本建築史Ⅳ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	3－2小学校・中学校 新しい教育形態への対応 / 西洋・日本建築史Ⅴ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	確認テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	7－1外部空間の把握 建築物と外部空間、外部空間の認識方法 / 西洋・日本建築史Ⅵ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	7－2外部空間の把握 外部空間のスケール / 西洋・日本建築史Ⅶ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	確認テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	7－2外部空間の計画手法 都市の通過空間・都市の広場 / 西洋・日本建築史Ⅷ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	7－2外部空間の計画手法 住宅地の外部空間 / 西洋・日本建築史 総括					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	7－2外部空間の計画手法 住宅地の外部空間 / 西洋・日本建築史 総括					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	確認テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること (2)小テスト (3)宿題・レポート提出 提出状況 など次ぎの規準で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				80%	
	小テスト	○	◎				10%	
	宿題・レポート	○	◎				10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	建築計画Ⅲ							
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	今泉 清太	
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	建築CAD科 1年							
授業概要	社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等も行う予定。							
授業形式	講義： ○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				建築計画とは何かを説明できる		
		○				既存の建築計画を調査・研究している		
		○				これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	ガイダンス4-1生活圏とコミュニティ施設						
	2	4-2図書館 図書館の変遷					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	4-2図書館 公共図書館の役割					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	4-2図書館 地域図書館の計画、近代建築史					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	4-3美術館 美術館の計画・各室計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	4-3美術館 美術館の計画・各室計画の変遷					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	4-4コミュニティーセンター、公民館					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。	
	8	4-5確認テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	5-1高齢社会と建築計画 5-2病院 病院の誕生					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	5-2病院 病院の計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	5-2病院 各室の計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	14	5-3確認テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	15	総括					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				80%	
	小テスト	◎	◎				10%	
	課題・プレゼンテーション	○	◎				10%	
履修上の注意	先ずテキストをしっかりと読んで予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを 推奨する。							

科目名	建築構造力学Ⅱ						
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅱ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	古賀 俊光
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、構造力学の基本となる力の考え方を身につける。						
授業形式	講義：	○	演習：	△	実習：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				応力を算出することができる。	
	○	○				3ヒンジラーメンの反力・応力を計算することができる。	
	○	○				トラスの軸力を図解法で算出することが出来る。	
	○	○				トラスの軸力を切断法で算出することが出来る。	
	○	○				トラスの軸力を節点法で算出することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	力学Ⅰの復習					
	2	片持ち梁の応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	張出し梁の応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	単純ラーメンの応力(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	単純ラーメンの応力(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	単純ラーメンの応力 ・ 確認試験1				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	7	片持ち梁系ラーメンの応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	3ヒンジラーメン系の反力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	3ヒンジラーメン系の応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	応力图すべての確認試験2				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	トラス1(図解法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	トラス2(切断法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	トラス3(節点法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	トラス ・ 確認試験3				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	15	力学Ⅱの総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	宿題・レポート	○	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築一般構造Ⅱ						
科目名(英)	Introduction of Building ConstructionⅡ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	古賀 俊光	
実施年度	2021年度		実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事	
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				RC構造の特徴について説明することが出来る。	
	○	○				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)について説明することが出来る。	
		○				断面算定をすることが出来る。	
	○	○				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。	
	○	○				トラス構造について説明することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	鉄筋コンクリート構造(以下RC構造)とは					
	2	RC構造の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	梁・柱部材				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	構造におけるひび割れ、スラブ・耐震壁				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	断面算定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	その他のコンクリート系構造(壁式構造)(SRC構造)(プレストレストコンクリート構造)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	各部構造(陸屋根、床、階段、壁、天井、開口部)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	鉄骨構造の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	鋼材の種類と性質				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	各部材の設計				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	接合(高力ボルト接合)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	接合(溶接接合)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	柱脚、トラス構造				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	構造Ⅱの総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	宿題・レポート	○	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築施工Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	集路 正巳
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	総合建設会社で主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	建築施工の位置づけと建築生産の基本理念を理解する。 建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を理解する。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○	○				建築生産の基本概念を説明できる	
	○	○				建築生産の基本概念と設計から着工までの流れを説明できる	
	○	○				建築工事を構成する各工種の工程と留意事項を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築生産の基本概念と着工までのあらまし 建築生産(設計と施工)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	施工者を選定し、工事請負契約をむすぶ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	工事に着工する(着工)①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	工事に着工する(着工)②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	仮設・準備工事①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	仮設・準備工事③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	土工事・地業工事・基礎工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	確認テスト① 鉄筋コンクリート工事概説				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	9	鉄筋工事①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	鉄筋工事②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	型枠工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	コンクリート工事①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	コンクリート工事②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	コンクリート工事③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	確認テスト②まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築法規Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	徳田 美穂子
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	建築物の設計、施工に必要な不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。	
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。	
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。	
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	・建築関係法令集 法令編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	階段、廊下の幅				事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	2	階段、廊下の幅②				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	3	確認申請などの手続き1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	4	確認申請などの手続き2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	5	構造と規模についての規定				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	6	用途地域1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	7	用途地域2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	8	道路概要				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	9	敷地と道路の関係				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	10	建ぺい率1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	11	建ぺい率2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	12	容積率1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	13	容積率2(緩和)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	14	容積率3(緩和)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	15	確認問題 (筆記試験)				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	BIM II							
科目名(英)	Building Information Modeling II							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	道脇 力	
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	建築CAD科 1年							
授業概要	・企画設計から基本、実施設計への流れ・モデル作成、モデルから実施設計図面を作成 ・チームワーク作業							
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○				基本設計、実施設計の概要と環境設定ができる。		
		○				企画設計モデルから基本設計モデルへの移行作業ができる。		
		○				基本設計モデルから実施設計モデルへの移行作業ができる。		
		○				実施設計図面の詳細図の作成ができる。		
		○				自身で思い描いた形、空間をARCHICADを使って表現できる。		
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22ではじめる BIM設計入門 [基本・実施設計編]							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1 2	前期の復習、教材モデルの入力					テキストを見て予習を行うこと	
	3 4	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと	
	5 6	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと	
	7 8	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと	
	9 10	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと	
	11 12	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと	
	13 14	課題制作への準備					情報、資料収集を行うこと	
	15 16	課題: 店舗付住					情報、資料収集を行うこと	
	17 18	課題: 店舗付住					タイムスケジュールの確認を行うこと	
	19 20	課題: 店舗付住					タイムスケジュールの確認を行うこと	
	21 22	課題: 店舗付住					タイムスケジュールの確認を行うこと	
	23 24	課題: 店舗付住					タイムスケジュールの確認を行うこと	
	25 26	課題: 店舗付住					タイムスケジュールの確認を行うこと	
	27 28	課題: 店舗付住					タイムスケジュールの確認を行うこと	
	29 30	課題: 店舗付住					必要提出資料の確認を行うこと	
	評価方法	(1)2つの課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・表現力を評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
提出期限			○				20%	
課題提出			◎				40%	
課題評価			◎				40%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を認めない。							

科目名	3DCG II (必修選択)						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間	担当者	西尾 英士	
実施年度	2021年度		実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所でインテリア設計・デザイン、CGパース業務に従事	
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	実測課題の制作を通じて、3dsMaxの機能と操作方法を学びます。リアルな空間を表現する技術と共に、実物の大きさ・サイズを学びます。再現課題の作成では、手元に存在しないものをどこまで忠実に再現できるか。光と影・物の質感を表現する技術を学びます。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
		○	○			モデリングに必要なサイズを実測することができる。	
		○	○			モデリングに必要な機能を選択し、モデリングができる。	
		○	○			必要な素材(マテリアル)を準備し、物の質感を表現することができる。	
		○	○			カメラワークを行い適切なアングルの設定ができる。	
		○	○			技術力(仕上がりの状況＝リアルさ)の追求の為に自主的に勉強しソフトの理解度を深めることができる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 2	課題① 実測課題:6F-7Fを再現 グループ (1回目)				モデリングに必要なサイズが足りない場合は、その都度実測しておくこと。	
	3 4	課題① 実測課題:6F-7Fを再現 グループ (2回目)				モデリングに必要なサイズが足りない場合は、その都度実測しておくこと。	
	5 6	課題① 実測課題:6F-7Fを再現 グループ (3回目)				次週が課題の提出となります。メンバーと協力して作業を進めておくこと。	
	7 8	課題① 実測課題:6F-7Fを再現 グループ (4回目) 課題提出				授業終了までに課題を提出できるようにメンバーと協力して作業を進めておくこと。	
	9 10	課題② 再現課題:バルセロナパビリオン 個人 (1回目)				モデリング作業と並行して、モデリングに必要な情報を集めておくこと。	
	11 12	課題② 再現課題:バルセロナパビリオン 個人 (2回目)				ハイクオリティ、リアルさを追求するとともに期限内に提出できるように作業を進めておくこと。	
	13 14	課題② 再現課題:バルセロナパビリオン 個人 (3回目)				次週が課題の提出となります。ハイクオリティ、リアルさを追求するとともに期限内に提出できるように作業を進めておくこと。	
	15 16	課題② 再現課題:バルセロナパビリオン 個人 (4回目) 課題提出				授業が終了するまでに作品を提出できるようにしておくこと。	
	17 18	課題③ 再現課題:サヴォア邸 グループ (1回目)				ハイクオリティ、リアルさを追求するとともに期限内に提出できるようにメンバーと協力して作業を進めておくこと。	
	19 20	課題③ 再現課題:サヴォア邸 グループ (2回目)				ハイクオリティ、リアルさを追求するとともに期限内に提出できるようにメンバーと協力して作業を進めておくこと。	
	21 22	課題③ 再現課題:サヴォア邸 グループ (3回目)				ハイクオリティ、リアルさを追求するとともに期限内に提出できるようにメンバーと協力して作業を進めておくこと。	
	23 24	課題③ 再現課題:サヴォア邸 グループ (4回目)				ハイクオリティ、リアルさを追求するとともに期限内に提出できるようにメンバーと協力して作業を進めておくこと。	
	25 26	課題③ 再現課題:サヴォア邸 グループ (5回目)				ハイクオリティ、リアルさを追求するとともに期限内に提出できるようにメンバーと協力して作業を進めておくこと。	
	27 28	課題③ 再現課題:サヴォア邸 グループ (6回目)				ハイクオリティ、リアルさを追求するとともに期限内に提出できるようにメンバーと協力して作業を進めておくこと。	
	29 30	課題③ 再現課題:サヴォア邸 グループ (7回目) 課題提出				授業が終了するまでに作品を提出できるようにしておくこと。	
評価方法	(1)課題①、課題②、課題③それぞれを提出する (2)技術力＝仕上がりの状況＝リアルさ以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題①		◎	◎			10%

科目名	建築パースⅡ（必修選択）						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	石原 達也		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ぶ。						
授業形式	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				建築パースの重要性・必要性を説明できる	
		○				パースの成り立ち(遠近法・図法の手法)について説明できる	
		○	○			図面を使って室内のフリーハンドイメージパースを作成できる	
		○	○			1消点図法・2消点図法を使って内観パースを作成できる	
		○	○			内観パースに着色し、カラーパースとして完成させることができる	
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	基本① 平行投写技法(1消点法)			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	2						
	3	基本② 家具の描き入れ方法					
	4						
	5	浴室：図法・フリーハンドパースを作る					
	6						
	7	洗面室：図法・フリーハンドパースを作る					
	8						
	9	キッチン①：図法・フリーハンドパースを作る					
	10						
	11	キッチン②：図法・フリーハンドパースを作る					
	12						
	13	和室：図法・フリーハンドパースを作る					
	14						
	15	子ども部屋：図法・フリーハンドパースを作る					
	16						
	17	リビング①：図法・フリーハンドパースを作る					
	18						
	19	リビング②：図法・フリーハンドパースを作る					
	20						
	21	階段：図法・フリーハンドパースを作る					
	22						
	23	ショップ①：図法・フリーハンドパースを作る					
	24						
	25	ショップ②：図法・フリーハンドパースを作る					
	26						
	27	ショップ③：図法・フリーハンドパースを作る					
	28						
	29						
30	着色						
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○				30%
	課題作品		○	○			60%
	提出状況		○				10%
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	Photoshop Illustrator II						
科目名(英)	Photoshop Illustrator II						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	松本 剛太
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	Illustratorの基本操作と、業界における重点を学ぶ それら基礎知識の浸透が目的						
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				Illustratorの機能について説明することができる	
		○				Illustratorによる適切なレイアウト処理ができる	
		○				オブジェクトの編集をすることができる	
		○				Photoshopとの連携を意識した処理ができる	
テキスト・教材 参考図書	情報リテラシー Office2016						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	IllustratorとPhotoshopの基本 ベクトルとラスターの理解				Illustratorのインストール	
	2	図形や線を描く					
	3	オブジェクトの選択と基本的な変形					
	4	色と透明度の設定 CMYK版について					
	5	オブジェクトの編集と合成					
	6	線と文字の設定					
	7	その他有効活用すべき機能					
	8	紙面レイアウト演習1 文字の役割					
	9	紙面レイアウト演習2 段組の活用					
	10	PhotoshopとIllustratorの連携 画像の配置とその機能特性					
	11	Illustrator練習問題1 練習問題の解説					
	12	Illustrator練習問題2 練習問題の解答					
	13	Illustrator練習問題 回答と解説					
	14	Illustrator練習問題3 解説なしでの独力解答					
	15	Illustrator練習問題3 解答と解説					
評価方法	習問題を小テストととして評価 2種実施、その提出により評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		○				80%
	宿題・レポート		○				20%
履修上の注意							

科目名	ビジネスマナーⅡ						
科目名(英)	Business manner						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	津嘉山 佳子
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	専門学校にて、ビジネスマナー教員として勤務
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客対応、電話対応、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
					○	サービス接遇検定3	
	○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。	
		○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。	
		○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する	
				○		基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 ・早稲田教育出版 サービス接遇検定3級 実問題集第39回～43回						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	検定試験について 受験級の選択・検定結果について					
	2	サービス接遇検定対策① 演習および解説 第39回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	3	サービス接遇検定対策② 演習および解説 第40回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	4	サービス接遇検定対策③ 演習および解説 第41回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	5	サービス接遇検定対策④ 演習および解説 第42回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	6	サービス接遇検定対策⑤ 模擬試験				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	7	サービス接遇検定対策⑥ 演習および解説 第43回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	8	サービス接遇検定対策⑦ 演習および解説				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	9	来客対応1 接遇の意義と重要性を理解する 接遇の心構え				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	来客対応2 来客対応の流れ 来客対応の基本用語				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	来客対応3 名刺の受け方・渡し方・取扱い				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	来客対応4 ロールプレイング テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	電話対応1 電話の特性 電話話法のポイント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	電話対応2 電話のかけ方・受け方 演習プリント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	学習のまとめ ― 今期学んだことの復習、理解を深める				定期試験に備えて、復習をしておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				75%
	ロールプレイングテスト	○	○				15%
	態度・意欲				○	○	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	就職実務 I B						
科目名(英)	Career Study 1B						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	各クラス担任
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる	
	○					基本的な面接対応ができる	
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある	
	○	○				企業研究の方法を知っている	
	○					学校求人を利用するための条件を知っている	
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	企業講話 実践的な課題の提案 * メールアドレスの確認と管理					
	2	就職活動に関する心構え ものづくり系の仕事とは					
	3	就職活動に関する心構え 必要なスキル					
	4	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション					
	5	・履歴書の書き方 ・メールアドレスの管理					
	6	・履歴書の書き方 随時添削 ・メールアドレスの管理					
	7	・履歴書提出と添削					
	8	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	GCB II						
科目名(英)	Global Citizen Basic II						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	各クラス担任
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	GCB I で学んだ「感謝の気持ちと他社への思いやり」を踏まえ、GCB II ではさらに「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢＝志」について学ぶことを確認します。「志とは何か」を学ぶ第一歩として、「夢、ビジョン、志の違いについて」および「志を立てるために大切な4つのこと」を学びます。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				考えることの大切さを知る	
	○	○				自分の言葉で伝える大切さを知る	
		○				目標の大切さ、志の大切さを知る。	
		○				行動する大切さに気づく。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志 ～志とは何か。どうすれば志を立てることができるのか～					
	2	なぜ志を立てることが大切なのか ～世界の中の日本・日本の中の私①～					
	3	自己を知る ～私の過去・現在・未来～					
	4	伝える力を学ぶ(1) ～「個」としての伝える力を高める(自分の言葉で自分の思いと考えを伝える～					
	5	伝える力を学ぶ(2)「グループコミュニケーション」 ～勇気と思いやりをもって言葉のキャッチボールを～					
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる (言葉の力とプロ意識に学ぶ) ～プロとは～					
	7	自己の大切さと責任を自覚する ～世界の中の日本、日本の中の私②～					
	8	GCB II を受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	検定対策 I B(選択)						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	松尾 ひとみ	
実施年度	2021年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	「2次元CAD利用技術者試験1級」は、CADを利用するための知識を持ち、さらに図面を正しく理解してCADを利用した作図を効率的にこなすことができる技能を証明できる試験制度です。3次元による設計・製造が進むものづくりの現場では、一方で、2次元図面の読み描きのできる人材が必要とされています。検定対策授業では、CAD利用技術者試験1級合格を目指し、演習課題に取り組みます。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○				図面と図面の関係を理解し、指定された位置の図面を作図することができる。	
	○	○				複数の図面から必要な寸法を読み取り、図面を作成することができる。	
	○	○				図面に必要な要素を読み取り、正確な図面を作図することができる。	
	○	○				時間内に図面を作図することができる。	
					○	2次元CAD利用技術者試験1級 建築試験に合格することができる。	
テキスト・教材 参考図書	CAD利用技術者試験 2次元2級・基礎 公式ガイドブック／過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	検定試験 概要説明／練習問題①				繰り返しの練習が大切です。 授業内容を復習しましょう。	
	2	練習問題②				繰り返しの練習が大切です。 授業内容を復習しましょう。	
	3	過去問演習① 木造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 授業内容を復習しましょう。	
	4	過去問演習① 木造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 授業内容を復習しましょう。	
	5	過去問演習② 木造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 授業内容を復習しましょう。	
	6	過去問演習② 木造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 過去問題を繰り返し練習しましょう。	
	7	過去問演習③ 木造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 過去問題を繰り返し練習しましょう。	
	8	過去問演習④ 木造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 過去問題を繰り返し練習しましょう。	
	9	過去問演習⑤ 木造住宅断面図の作成				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	10	過去問演習⑥ 木造住宅断面図の作成 タイムトライアル				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	11	過去問演習⑦ 木造住宅断面図の作成 タイムトライアル				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	12	過去問演習⑧ 木造住宅断面図の作成 タイムトライアル				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	13	過去問演習⑨ 木造住宅断面図の作成 タイムトライアル				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	14	過去問演習⑩ 木造住宅断面図の作成 タイムトライアル				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	15	過去問演習⑪ 木造住宅断面図の作成 タイムトライアル				自信を持って試験に臨みましょう。	
評価方法	(1)練習問題(2)過去問題(3)検定試験の以上を以下の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	練習問題	○	○				10%
	過去問題	○	○				40%
	検定試験	○	○			○	50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は科目履修単位を与えない。						

科目名	数学ゼミ I B(選択)									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	15時間			担当者	吉田 麻美	
実施年度	2021年度			実施時期	後期			担当者実務経験		
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 1年									
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す									
授業形式	講義： △		演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				単項式と多項式の基本問題が解ける				
	○	○				文字式を利用した応用問題が解ける				
	○	○				連立方程式の基本問題が解ける				
	○	○				連立方程式の応用問題が解ける				
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	【演習問題】 式の計算 単項式と多項式					解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。			
	2	【演習問題】 文字式の利用 偶数と奇数の和								
	3	【演習問題】 文字式の利用 等式の変形								
	4	【演習問題】 文字式の利用 図形の関係式の変形								
	5	【演習問題】 連立方程式 加減法と代入法を用いた解き方								
	6	【演習問題】 連立方程式 いろいろな連立方程式の解き方								
	7	【演習問題】 連立方程式 連立方程式の利用・身近な問題を解く								
	8	【演習問題】 総合復習 まとめ								
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	受講態度・意欲	○		○				30%		
	課題の提出	○		○				70%		
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする									

科目名	BIM 専攻 I B(選択)						
科目名(英)	Building Information Modeling I B						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	道脇 力
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。	
		○				レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。	
		○				自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。	
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22 Magic Vol. 1 及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションボード作成「データ提出」				前回の復習を行うこと	
	2	ツールの応用、特殊ツールの紹介、質疑応答				前回の復習を行うこと	
	3	課題2: 作成モデルのリノベーション「コンセプト」				情報、資料収集を行うこと	
	4	課題2: 作成モデルのリノベーション「エスキス①」				情報、資料収集を行うこと	
	5	課題2: 作成モデルのリノベーション「エスキス②」				情報、資料収集を行うこと	
	6	課題2: 作成モデルのリノベーション「モデリング①」				タイムスケジュールの確認を行うこと	
	7	課題2: 作成モデルのリノベーション「モデリング②」				タイムスケジュールの確認を行うこと	
	8	課題2: 作成モデルのリノベーション「プレゼン資料提出」				必要提出資料の確認を行うこと	
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎				50%
	課題提出		◎				50%
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。						